

出題分析			
試験時間	90 分	配点	50 点
		大問数	4 題
分量 (昨年比較) [減少	<input type="checkbox"/> 同程度	増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 難化]
<p><b>【概評】</b></p> <p>〈現代文〉</p> <p>本文の分量は (一) (二) とともに昨年と同程度。設問数は (一) と (二) 合わせて 14 で昨年と同じであり、解答数は 16 で昨年より 2 つ減った。(一) は本文が難解であることに加え、出題意図の把握しづらい設問が散見され、受験生は手こずったと思われる。一方 (二) は具体的で平易な文章であり、設問もおおむね正解を絞り込みやすかった。</p> <p>〈古文〉</p> <p>本文の分量は昨年より 300 字程度減少した。設問数が 1 つ減り、解答数も 2 つ減った。歴史物語からの出題で、比較的内容を把握しやすい文章だった。文法や解釈、有名歌の歌人名等の設問は基礎的な知識で対応でき、判断に迷う選択肢も少なかった。</p> <p>〈漢文〉</p> <p>本文の分量は昨年よりやや増加。文中に漢詩が 2 首含まれている。設問数は 1 つ増えて 5、解答数は 2 つ増えて 7 であった。本文の内容を大まかに把握することは比較的容易であり、設問も紛らわしい選択肢が少なく取り組みやすいものが多かった。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (評論) 吉田健彦『メディアオー ム ポストヒューマ ンのメディア論』	現代のメディア技術と民主主義の関係について考察した文章。抽象的な表現が多く、受験生は読み取りに苦労したであろう。空欄補充問題は取り組みやすかったが、傍線部内容把握問題は出題意図がつかみづらい。内容説明 2 問、理由説明 2 問、空欄補充 2 問、内容合致 1 問の構成。	やや難
二	現代文 (評論) 清水哲郎『医療・ケア 従事者のための哲 学・倫理学・死生学』	医療・ケア従事者が身につけるべき倫理原則について具体例を取り上げつつ論じた文章。本文は読みやすく、設問もおおむね正解がはっきりしている。問八の選択肢口中に誤字が含まれている可能性がある。理由説明 3 問、語句の意味 1 問、漢字 1 問、空欄補充 1 問、内容合致 1 問の構成。	やや易

三	古文 (歴史物語) 『今鏡』	村上帝の時代に、蔵人頭として活躍した延光をめぐる複数の逸話から成る文章。主体判定1問 (枝問3)、語句の解釈1問 (枝問2)、空欄補充 (文法) 1問、人物把握1問、傍線部解釈2問、敬意の対象1問、和歌知識1問、内容説明1問の構成。	標準
四	漢文 (逸話) 『太平広記』に引く黄璞『閩川名士伝』	旅の途中で恋仲になった妓女に、都に呼び寄せるという約束をしたが、それに背いて長期間放置した欧陽詹に関する逸話。問二十五は注が手がかかりになる。解釈2問、言い換え1問、空欄補充1問、書き下し1問、理由説明1問の構成。	標準

#### 合格のための学習法

##### 〈現代文〉

教育学部の出題は、各設問の選択肢に一部紛らわしいものがみられる。選択肢と本文を照らし合わせ、丁寧に選択肢を吟味することを日頃の演習でしっかり練習しておこう。また近年は哲学的、社会学的、政治学的、文学的テーマも多く出題されるため、それらのテーマを扱った評論文を読み、過去問演習に取り組むことで、設問に対応できるようにしておきたい。

##### 〈古文〉

出典は物語を中心に、日記や説話など幅広いジャンルから出題される。難度の高い文章が課される年もあり、標準レベル以上の文脈把握・内容理解が要求されるので、単語・文法などの基礎知識を固めた上で読解演習を積み、実戦力を培ってほしい。また、和歌修辞や文学史の知識が問われることもあるので確認しておこう。

##### 〈漢文〉

奇をてらわず、基本～標準レベルの語句・句法を確実に身につけていれば、一定程度の得点が見込めるだろう。ただし本文のジャンルや設問の形式は多岐に渡るため、早いうちに基礎を固めたうえで、過去問などでさまざまな文章に触れ、どのような問題にも対応できる力を養っておきたい。